

営業時間	9:00～14:00 (14:00～日中一時支援事業有り)		送迎の有無	無	
目標 (事業所理念)	<p>・こどもがいろいろな遊びや活動を通して、自分で「わかる」「できる」の体験を積み重ねることで、社会参加や自立に向けた「生きる力」を育みます。</p> <p>・こどもの豊かな成長や発達にむけて、それぞれに合った言葉かけや関わりを、保護者の方と一緒に考えていきます。安心して子育てができる環境づくりをめざします。</p>				
支援方法	<p>・3歳児、4歳児、5歳児の年齢別のクラス編成です。保育士と療育指導員、療育支援員が教室運営をし、こどもたち一人一人の様子を理解し、発達の過程に応じて個別や集団における5領域の視点を踏まえた活動を通して支援を行っています。</p> <p>・こどもの成長は「遊び」を通して促されることから、周囲との関わりを深めたり、表現力を高めたりする遊びを通し、職員が適切に関わる中で、豊かな感性や表現する力を養い、想像性を豊かにできるように支援しています。</p> <p>・一人一人のこどもの様子や家庭での生活においてアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に観察した上でこどもと保護者が安心感と信頼感をもって活動できるようこども主体としての思いや願いを受け止め、クラス年齢に合った保護者の気持ちに寄り添いながら支援しています。</p>				
支援内容	<p>活動の中で、一人ひとりに合った環境設定や、関わりを大切にしていきます。それぞれに個別に指導計画を作成し、保護者の方とも面談を実施しながら、心身の健やかな成長を育みます。子ども達の豊かな育ちのために「得意なところを伸ばす」ことに重点をおき「成功感」や「達成感」が実感できるようにしていきます。</p>				
対象児	3歳児(めろん組)		4歳児(いちご組)	5歳児(ぶどう組)	
本人支援	項目				
	健康・生活	<p>・健康状態の維持・改善 ・生活習慣や生活リズムの形成 ・基本的スキルの獲得</p>			
		健康な心と体を育て、健康で安全な生活を作り出すことを支援する。小さなサインでも心身の変化に気が付けるように観察をしていく。	睡眠、食事、排泄等の基本的な生活習慣を形成し、健康の維持・改善に必要な生活リズムを身につけられるよう支援する。	こどもが食事、排泄、睡眠、衣類の着脱、身の回りを清潔にすること等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう、生活の場面における環境の工夫を行いながら、適切な時期に適切な支援を行う。	
	運動・感覚	<p>・姿勢と運動・動作の基本的技能の向上 ・身体の移動能力の向上 ・保有する感覚の活用・感覚の特性への対応</p>			
		<p>・日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習慣、関節の拘縮や変形の予防筋力の維持・強化を図る。</p> <p>・自力での身体移動や歩行など、日常生活に必要な移動能力の向上の為の支援を行う。</p> <p>・保有する視覚、聴覚、嗅覚、固有覚、前提覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。</p> <p>・こどもの発達の段階、興味関心に応じて、身体を使った遊び等を取り入れていく。</p>			
	認知・行動	<p>・認知の発達に対する理解と対応・対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習慣・行動障害への予防及び対応</p>			
		一人一人の認知の発達を理解し、それらを踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるように支援する。こだわりや偏食に対する支援を行う。	取得した情報を過去に取得した情報と照合し、環境や状況を把握・理解できるようにするとともに、情報を的確な判断や行動につなげることができるよう支援を行う。	物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、大小、数、重さ、空間、時間等の概念の形成を図ることによって、認知や行動の手掛かりとして活用できるよう支援する。	
	言語・コミュニケーション	<p>・コミュニケーションの基礎的能力の向上・言語の受容と表出・言語の形成と活用</p> <p>・人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得・コミュニケーション手段の選択と活用</p>			
興味や関心に応じて、言葉によるコミュニケーションだけでなく、表情や身振りを用いて意思のやり取りが行えるようにするなど、基礎的な能力を身につけることができるように支援する。		個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、相手と同じものに注意を向け、その行動の意図を理解・推測すると感じた共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。	コミュニケーションを円滑に行うためには伝えようとする側と受け取る側との人間関係やその時の状況を把握することが重要であることから場や相手の状況に応じて、主体的にコミュニケーションを展開できるよう支援する。		

	<p>・アタッチメント(愛着)の形成と安定・遊びを通じた社会性の発達・自己理解と行動の調整</p> <p>・仲間づくりと集団への参加</p>
人間関係 社会性	<p>こどもが基本的な信頼関係を もつことができるように環境に対する 安心感・信頼感、人に対する信頼感を 育む支援を行う。感情が崩れたり、不 安になった際に大人が相談に乗ること で安心を得て、安心安全な場所の役割 を果たせるよう支援する。</p> <p>遊びや活動を通じて模倣することに より、社会性や対人関係の芽生えを 支援する。感覚遊び、運動遊びから 見立て遊びごっこ遊び等の象徴遊び、 一人遊びから並行遊び、職員が介入し て行う連合的な遊び、ルール守って遊 ぶ共同遊びを通して徐々に社会性の発 達を支援する。</p> <p>職員を介して自分のできることや苦手なこと など自分の行動の特徴を理解するとともに、 気持ちや情動の調整ができるように支援す る。集団に参加するための手順やルールを理 解し、遊びや集団活動に参加できるように支 援するとともに、ともに活動することを通じ て、互いの存在を認め合いながら仲間づくりに つながるように支援する。</p>
地域支援・地域連携 (地域連携・園外活動)	<p>相談支援事業所と相談しながら、地域の様々な場面で適切な支援を受けられるよう関係機関(医療、幼稚園、保育園、児童発達支援事業所、放課後等デイサービスなど)と連携していきます。同じ敷地内に併設されている幼稚園と保育園のこどもたちと一緒にポッチャ、コンサート鑑賞、マラソン、園庭遊びをしたり、プールを借りて入ったりする交流も行っています。</p>
移行支援	<p>幼稚園、保育園等の移行支援をしたり、ライフステージの切替えを見据えた将来的な移行に向けた準備、同年代のこどもをはじめとした地域の幼稚園、保育園等との交流を進めていきます。</p>
家族支援	<p>・「気づく」「知る」「支える」「つなげる」の方針のもと、クラス担任と保護者との面談を行うことで、こどもの成長や発達の基盤となる親子関係や家庭生活を安定・充実につなげ、それぞれの年齢による保護者の悩みやこどもを育てる家族が安心して子育てができるよう支援していきます。</p> <p>・保護者間でのグループワーク、専門職員からの講話、卒園した保護者の方々の話などを聞いて語り合う「えがおのなかま会」という保護者同士の繋がり場の機会を設けています。</p>
職員の質の向上	<p>・職員は、特別支援教育士・大学教授や小児科医、小児精神保健科医のスーパーバイザーに年4回保育・療育を見ていただき研修を受けています。</p> <p>・発達支援課の専門職(臨床心理士と保健師、社会福祉士)を講師として研修を行っています。</p> <p>月に1度通所事業所全職員が集まり、利用している児童全員の情報共有や支援方法の確認や意見を出し合うケース会議も行っています。</p>
主な行事等	<p>こどもの日のつどい(5月)・七夕(7月)・親子運動会(9月)・いもほり(10月)・ハロウィン(10月)・親子遠足(11月)</p> <p>クリスマス(12月)・豆まき(2月)・ひな祭り(3月)・各月誕生会・参観会(7月、1月)・避難訓練(毎月)・防犯訓練(12月、2月)</p>
主な活動等	<p>外遊び(遊具、砂場・三輪車)・リズム遊び・描画遊び・製作遊び・運動遊び・サーキット遊び・水遊び・プール遊び・散歩・楽器遊び・感触遊び・マラソン・食育・花や野菜の栽培・専門職による個別活動(作業療法士等)</p> <p>基本的な生活習慣(朝の支度、朝の会、手遊び、シール貼り、歌、読み聞かせ、排泄、弁当、帰りの会)</p>

※児童発達支援ガイドライン 参照

あふれるえがお

なかまとともに



三島市発達支援課 キャラクター

「わたぼうしパパ」 「ほほんちゃん」 「つぼみちゃん」 「わたぼうしママ」

～にこバルの由来～

「にこ」は笑顔をあらわしています。
「バル」はスペイン語で仲間を意味します。
仲間と共に育ち合う笑顔あふれる場所になることを願っています。